

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市小松島児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》	・ 令和3年度 21,810人（前年度比 119.4%） ・ 令和2年度 18,268人 ・ 令和元年度 24,989人
	《事業》	・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》	()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 46,665千円 (44,450千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》	・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、保護者会をはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>例年実施している児童館利用者アンケートに、今年度初めて次のような質問項目を設定しました。「別室でのオンラインによる行事参加について」という内容です。実施してきた行事のほぼ全てに人数と時間の制限を行ってきたことで、なかなか参加できないという利用者の方も多くいました。そこで、行事の様子をオンラインで館内の別の部屋に発信し大型テレビで見てもらおうという試みを行ってきました。より多くの方々に楽しんでいただけたらと思ったからです。先のアンケートへの回答は「オンラインなら参加しません」という方が約4割ほどおりました。これには正直びっくりしました。もちろん参加しますという声の方が多かったわけですが、行事への参加理由には活動内容もさることながら、やはり同じ乳幼児を持つ親同士で空間を共有しながら親しく声を掛け合い、交わりたいという気持ちが強いのだなということを知られました。</p> <p>これまで長年継続して取り組んできている月1度の民児協との共催行事「ホットひといきママのおしゃべりティータイム」では、今年度後半からは外部の講師の先生方をお招きしての活動にも取り組んできました。「ハロウィンコンサート」「サンタさんと英語で歌やダンスを楽しもう」などです。「親子共々楽しめました」「こんな行事を待っていました」という声をたくさん聞くことができました。</p> <p>また、児童館で遊びたいと思ってもできなかった小学生を対象に思い切って児童館まつりを実施しました。3密防止として人数制限と遊びの部屋の入室数制限、一方通行の動線、各部屋の混み具合から空いている遊び場への放送による誘導などを心掛けました。親の会や子育て支援クラブのボランティアの皆さんの支援の中で、のびのび、はつらつと活動する子どもたちの姿に職員を含め大人の方が元氣と勇気をいただいたように感じています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置などの発令があったが、児童クラブに関しては、年間を通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部休止していたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、幼児クラブや年齢ごとのプログラムを実施せず、ブログやホームページなどの広報活動に力を入れ、自由来館促進に努めた。職員や地域の方々が来館者に寄り添い児童館を身近に感じ、利用しやすい環境作りに努めた。また、民生委員児童委員協議会と社会福祉協議会と共催し「ホットひといきママのおしゃべりティータイム」や相談事業の「おたママサロン」などの取り組みにより地域の子育て家庭支援拠点としての役割を担っている。</p> <p>地域交流推進事業においては、コロナ禍でのお祭りのあり方について協議を重ね、小学生対象で「児童館まつり」を開催した。地域の方々の協力で館内外に様々なブースを設置し、子ども達の居場所と遊びの場を提供した。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、高学年が1年生をサテライトに招待し、ゲーム遊びで交流するなど、異学年の関わりを大事に子ども達が主体的に活動できる環境作りに努めている。また、子ども一人ひとりの姿をとらえ、記録を取り、職員で共有し日々の支援に生かしている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課